SCIENCE REPORT OF THE YOKOSUKA CITY MUSEUM, NO. 19
December, 1973

神奈川県羊歯植物

(7)

大谷　　茂*

Fern Flora of the Kanagawa Prefecture, Japan

(7)

S. OHTANI*

(With 2 Plates)

This report is continued from No. 18 (1971) of the Science Report of the Yokosuka City Museum. Two genera of Blechnanceae are mentioned here as follows:-

Aspleniaceae of Kanagawa prefecture.
Genus　Asplenium Linn.
Genus　Phyllitis Ludwig.

The distribution given here for each species is based on localities of the main specimens examined by the author, or on wild localities which were confirmed by the author or are quoted from reliable literatures. Arrangement system is followed "An Enumeration of the Japanese Pteridophytes (1961)" by T. Namegata and S. Kurata. Regarding the life forms and reproductive forms of each species is shown in the first report in this series, No. 12 (1966) of this magazine.

1. 緒　　言

この報告は本誌 18 号 (1971) につづくものである。

ここに発表したものは神奈川県産のチャセンシダ科に属するものである。

各々の種の分布資料は，著者の検し得た主要標本産地を原則としてあげた。また一部は著者の確認した自生地および信頼できる文献を引用した。

科・属・種の配列および学名は行方・倉田共編の日本産シダ植物総目録によっている。

生活型 (Life form) および繁殖型 (Reproductive form) については，本報告 (1)，本誌 12 号 (1966) を参照していただきたい。

この報告をするにあたって資料を提供された大場秀章，守矢淳一の両氏に深く謝意を表する。

2. 神奈川県産の種類とその分布

20. Aspleniaceae チャセンシダ科

Asplenium Linn. チャセンシダ属

〔225〕 *Asplenium capillipes* MAKINO ヒメイワトラノオ (松村，1916) E (e) Er D_1 R_4.

大山: (秋山　守，1961. 8. 12，秋山　守氏はヒメトラノオと記しているが本種である)。

丹沢: 札掛タライゴヤ沢，alt. 900 m (大谷　茂，1958. 8. 12，YCM)，同 (西田　誠，1962. 7. 3，YCM)。

本種は不定芽を生ずるもので，とくに石灰岩地を好む性質がある。しかし丹沢においては必ず

---

* 横須賀市博物館 Yokosuka City Museum, Collections Examinet:
YCM, Yokosuka City Museum, Yokosuka.
原稿受理 1972 年 7 月 19 日　横須賀市博物館業績第 240 号

しも石灰岩地に産するというものではない。文献産地としては丹沢，早戸川上流で飯田　和氏が1962年に採取している。

〔226〕 *Asplenium incisum* THUNBERG トラノオシダ (田中，1871) H (e) D_1 R_3.

本種は平地から山地まで，全県下各地に極めて普通に見られるものである。標本産地ならびに文献産地は次の通りである。

川崎：登戸付近 (文献産地，1932)。

横浜：南区弘明寺 (長谷川義人，1955. 12. 16, YCM)；金沢区朝比奈峠 (宍戸玲子，1967. 8. 17—Det., 大谷　茂 1967. 10. 8)。

三浦：横須賀，大楠山登山道 (大谷　茂，1960. 6. 26, YCM)；池上 (小板橋八千代，1965. 11. 29, YCM)；金谷 Kanaya (小板橋，1966. 1. 27, YCM)；武山 Takeyama (石渡裕之，1967. 8. 24—Det. 大谷　茂 1967. 10. 8)。

葉山，木古庭 (斎藤照一，1959. 6. 2, YCM)。

逗子，神武寺 (大谷　茂，1959. 8. 30, YCM)。

平塚：市街地を除く各地 (城所，豊田，岡崎，公所，南金田，千須谷，上吉沢，下吉沢，土屋)。特に丘陵地に普通 (文献産地，守矢淳一，1970)。

大磯：高麗山 (小森有喜，1930. 10. 12, YCM)，同 (守矢淳一，1954. 10. 17)。

山北：洒水滝 (遠藤将光，1957. 10. 20, YCM)。

丹沢：水無川 (大谷　茂，1952. 8. 26, YCM)，札掛付近 (倉田　悟，1956, 文献産地)。

箱根：湯本・其他 (文献産地，箱根植物，1913)，箱根神社 (府川勝蔵，1954. 7.8)，須雲川 (小川里江，1956. 5. 3, YCM)。

出口長男氏は「横浜帷子川流域の植物」(文献産地，1953) において，林下，崖地，石垣，草葺屋根に本種が見られると報じている。また同氏著の「横浜植物誌」1968 においても樹林下，林縁，石垣，崖縁，草葺屋根に生ずることを知らしている。いずれにしても温帯から暖帯にかけて広く分布するシダである。

〔227〕 *Asplenium normale* DON ヌリトラノオ (田中，1871) E (e) Er D_1 R_4.

横浜：戸塚 (村上司郎，1964. 8. 22)，この標本は著者も確認しているが，自生かどうか自信がない。

相州大山・西丹沢世附 (YOZUKU) (文献産地，林　弥栄外3氏，1961)。

大山・箱根・塔ケ岳・尊仏山・丹沢山 (文献産地，神奈川県植物目録，1933)。

西田　誠外2氏は丹沢・大山学術調査報告書において (1964, 文献産地)，丹沢山塊の山麓の谷筋には暖温帯に分布の中心をもつ暖地性シダが多いが，さらに南方に分布の中心をもつ亜熱帯性シダとして，このヌリトラノオをあげている。

西田　誠氏は，この調査で予備調査団の一行に加わり箒沢—石棚山—檜洞丸—蛭が岳—丹沢山—塔が岳—タライ小屋沢—札掛のコースを調査しており，その後引きつづいて西田・栗田・大場の3氏でヤビツ峠—札掛—タライ小屋沢—塔が岳—竜が馬場—塔が岳—ユーシン—玄倉のコースを踏破している。

西田氏等はこのヌリトラノオをどこの地点で確認しているか記録していない。単に林　弥栄氏の文献を引用されたか。いずれかわからない。

本種は常陸以西の本州，四国，九州から熱帯アジアなどに分布しているのであるから，以上にあげた文献産地に自生の疑問はもたないが，著者はまだ確認することはできない。

〔228〕 *Asplenium pekinense* HANCE トキワトラノオ (牧野，1889) H (e) Ep D_1 R_3.

足柄上郡関本～地蔵堂 (松岡輝宏，1958, 文献産地—1963, 1966)。

足柄上郡山北 (田代信二・飯田　和・西尾和子，1958. 7. 6, 文献産地—1963，1966，田代信二氏標本 1958．8．22 採集品が本館に保管されている。YCM), 小田原城趾 (大津　清，1958. 9. 27, 文献産地—1963，1966)，箱根宮城野 (大谷茂，1965. 7. 27, YCM, 箱根新産)。

本種は以前にはコバノヒノキシダの変種にされていたくらいで非常によく似たものであるが，コバノヒノキシダに比して，裂片が狭くて線状に近く，また質がいくらか厚いものである。

〔229〕 *Asplenium Ruprechtii* KURATA クモノスシダ (田中，1871) E (e) Er D_1 R_4.

横浜：著者が昭和の初め北鎌倉今泉不動の丘陵から本郷地区に下ったときクモノスシダを発見採取したが，このときの標本は戦災で焼失してしまった。

鎌倉：鶴ヶ岡八幡宮，大イチョウのある石崖 (府川勝蔵，1934. 2. 23, 著者確認)，同 (大谷　茂，1955. 9. 5, YCM)，葛原ヶ丘 (大谷　茂，1953. 11. 29, YCM, 同 1962. 3. 11 YCM)。

大山：下社 (田代信二・飯田　和・西尾和子，1957 文献産地)，相州大山 (村上司郎，1954 年 5 月，著者確認)。

丹沢：中津渓谷 (逸見　操，1956. 11, 12, YCM; 大谷　茂，1961. 5. 5 YCM)，中津渓谷石小屋付近 (府川勝蔵，1957. 6. 15 著者確認)，西沢・用木沢 (田代・飯田・西尾，1958，文献産地)，箒沢 (秋山　守，1957. 11. 22 著者確認)，石小屋 (Ishigoya)・早戸川 (村瀬信義，1960, 文献産地)。

山北：人遠 (Hitotoo) (西尾和子，1958. 7. 13, YCM)。

道了山 (西尾和子，1957, 稀産，文献産地)。

神奈川県植物目録 (1938) にはクモノスシダの自生地として，鎌倉，足柄上郡松田および山北 (Yamakita) をあげている。

また林　弥栄外 3 氏の丹沢山塊の植物調査報告 (1961) には大山，中津渓谷，津久井，大室山を産地として報じている。

増島弘行・石渡治一氏の三浦半島植物誌 (1950) にクモノスシダの産地として，逗子の神武寺をあげているが，これは誤認であろう。神武寺にこのシダを期待するのは無理である。またこれを証明する標本は今日どこにもない。

本種はとくに石灰岩地を好むものである。

〔230〕 *Asplenium Sarelii* HOOK. コバノヒノキシダ (松村，1886) E (e) Er D_1 R_3.

横浜：保土ヶ谷区保土ヶ谷町—草葺屋根 (出口長男，1953 文献産地。しかし同氏のその後の著書，横浜植物誌 (1968) には，この記載はない)，戸塚 (村上司郎，1963. 8—著者確認)，金沢区平潟付近で平沢愛三氏が採集 (採集年の記録なし) していると出口長男氏は発表 (1968) している。しかし出口氏はこれは? だとしている。もちろん著者もこの地区では確認していない。

三浦：横須賀衣笠公園 (大谷　茂，1939. 11—伊藤　洋同定，この標本は府川勝蔵氏が保管している)，衣笠城趾入口付近 (大谷　茂，1960. 8. 23, YCM), 安針塚～田浦 (久内清孝，採集年不明).

葉山長柄 (Nagae) (大谷　茂，1954．11. 6, YCM)，逗子桜山～葉山長柄 (大谷　茂，1956. 8. 21, YCM; 同 1956. 9. 19, YCM), 逗子の飛地二子山谷 (大谷　茂，1957. 7. 30, YCM)。

鎌倉：鎌倉 (文献産地，1933—神奈川県植物目録)，建長寺 (寺島浩一, 1953. 7. 15, YCM), 鎌倉 (千葉周郎，1953. 9. 26, YCM), 鶴ヶ岡八幡宮大銀杏わきの石垣 (大谷　茂，1955. 9. 5, YCM)。

大磯：高麗山 (守矢淳一，1954．10．17，著者確認，同氏の文献—1953—にすでに極めて僅かではあるが自生することを発表している)。

大山：大山 (村上司郎，1964. 5 著者確認; 逸見　操，1956. 7. 23，YCM)，阿夫利神社社務所付近 (田代信二・飯田　和・西尾和子，1957 文献産地)。

丹沢： 西沢・白石沢 (田代・飯田・西尾, 1958, 文献産地), ミノ毛 (村瀬信義, 1960, 文献産地), 大山・ユーシン (林 弥栄外 3 氏, 1961, 文献産地), ユーシン～玄倉 (大場秀章, 1962. 8. 24, YCM, No. 10930)。

道了山・小田原城跡・早川・湯河原・平山滝 (朝倉修一外 3 氏, 1957, 文献産地)。

道了山 (石渡 宏, 1964. 12. 29, YCM; 大谷 茂, 1965. 1. 29, YCM)。

小田原・湯河原 (松浦茂寿, 1958, 文献産地)。

〔231〕 *Asplenium Trichomanes* LINN. チャセンシダ (田中, 1871) E (e) Er D_1 R_3.

三浦： 逗子～横須賀, 鷹取山 (久内清孝, 採集年?)。

鎌倉： 鶴ヶ岡八幡宮大銀杏のある付近の石垣 (大谷 茂, 1953. 8. 5, YCM; 同 1955. 9. 5, YCM), 同 (守矢淳一, 1962. 1. 29 著者確認)。

鎌倉・大山 (文献産地, 1933—神奈川県植物目録)。

大山： 相州大山 (村上司郎, 1964. 5, 著者確認)。

山北： 平山滝 (朝倉修一, 1965. 文献産地)。

箱根 (松浦茂寿, 1958, 文献産地)。

チャセンシダや次にでてくるイヌチャセンシダの類は葉軸と中軸は紫褐色で光沢があって美しいが, 硬くて折れ易い。チャセンシダは葉軸 (葉柄) および中肋に両側だけに翼が沿着しているがイヌチャセンシダは両側と下面の三方に翼がある。イヌチャセンシダは先端が垂れて横に這い, 地につく傾向がある従って先端や中途から不定芽がつき易い。しかしチャセンシダも葉軸の先に稀に不定芽がでる。(植物研究雑誌, 34 (1): 30—1959)。チャセンシダは葉は多数束生して直立し翼も不明瞭であり, また普通は不定芽を出さないものである。

〔232〕 *Asplenium tripteropus* NAKAI イヌチャセンシダ (中井, 1930) E (e) Er D_1 R_4.

大山： 東麓, 厚木市広沢寺温泉 (佐竹元吉, 1962; 飯田 和, 1963 いずれも文献産地—1966, ここが本県における東限産地である)。

山北： 酒水滝 (大谷 茂, 1962. 1. 14, YCM)。

奥湯河原 (田代信二, 1956 文献産地—1957), 同 (西尾和子, 1957. 11. 3, YCM), 同(守矢淳一, 1965. 1. 3 著者確認)。

〔233〕 *Asplenium unilaterale* LAMARCK ホウビシダ (松村, 1886) (ヒメクジャクシダ, 牧野, 1889) E (e) Er D_1 R_1.

三浦： 逗子, 神武寺 (牧野富太郎, 1913. 4. 6), 同 (小森有喜, 1930. 12. 21, YCM), 同 (府川勝蔵, 1937. 1. 20 著者確認, 同 (大谷 茂, 1947. 8. 9 YCM), 同 (守矢淳一, 1949. 11. 20 著者確認), 同 (大谷 茂, 1951. 8. 7, YCM; 1952. 4. 2, YCM), 同 (村上司郎, 1953. 4. 26 著者確認), 同 (大谷 茂, 1953. 5. 17, YCM; 953. 7. 28, YCM; 1955. 11. 5, YCM; 1956. 1. 2, YCM; 1957. 7. 25, YCM; 1957. 8. 21, YCM; 1957. 8. 21, YCM; 1958. 9. 14, YCM; 1959. 9. 20, YCM)。

小田原： 風祭 (飯田 和, 1957 稀, 文献産地), 同 (飯田 和, 1958. 7. 28, YCM)。

伊豆湯河原 (飯田 和, 1958 文献産地)。

久内清孝氏の日記によると, 逗子神武寺が植物の宝庫として発見されたのは, 久内清孝氏が故佐伯立四郎氏と明治 44 (1911) 年 8 月 11 日のことである。つまり植物学者として始めて神武寺を訪れたわけである。その後, 牧野富太郎先生に紹介されて神武寺は学界に知られるようになったのである。

牧野富太郎先生が始めて神武寺を訪れたのは大正 2 (1913) 年 4 月 6 日のことで, このときホウビシダ, フモトカグマ, ヤマヤブソテツをここで採取しているのである。

〔234〕 *Asplenium varians* WALL. ex HOOK. et GREV. イワトラノオ (田中, 1871) (松村, 1886) (ヒメトラノオシダ, 松村, 1884) E (e) Er D_1 R_3.

鎌倉: 鶴ヶ岡八幡宮大銀杏のある石垣 (大谷 茂, 1953. 8. 5, YCM)。

津久井: 城山 (間瀬美保子, 1962. 4. 29, YCM)。

大山: 不動尊・下社 (田代信二・飯田 和, 西尾和子, 1957 文献産地), 大山 (守矢淳一, 1952. 7. 21 著者確認), 同 (長谷川義人, 1956. 4. 18, YCM), 同 (村上司郎, 1960. 6. 26 著者確認), 同(秋山 守, 1961. 8. 12 著者確認), 同 (大谷 茂, 1964. 12. 13, YCM)。

丹沢: 大山, ヤビツ峠〜塔ヶ岳〜札掛 (文献産地, 1961), 札掛 (倉田 悟, 1956), 一の沢考証林 (大谷 茂, 1962. 5. 20, YCM)。

山北: 洒水滝 (石渡 宏, 1962. 1. 14, YCM)。

奥湯河原 (大谷 茂, 1957. 11. 10, YCM)。

箱根: 道了山・湯河原・塔ノ坂 (文献産地, 1957), 箱根神社々叢 (府川勝蔵, 1933. 10. 15 牧野富太郎先生同定されたもの, 府川氏所蔵)。

鎌倉・箱根・津久井 (石老山, 神ノ川) (文献産地, 1933)。

〔235〕 *Asplenium Wilfordii* METT. ex KUHN アオガネシダ (松村, 1886) E (e) Er (Et) D_1 R_3.

山北町人遠入口付近, 市間橋より手前の崖で, 岩上に生ず (渡辺次雄 No.1623, 1966. 7. 31, これは相模新産のシダである)。

同氏は 3 点を標本にしたが, そのうち 2 点は国立科学博物館の第 32 回おし葉展, (1968. 3. 1〜3. 24) に出品されたので, そのまま国立科学博物館に保管されているものと思われる。残る1点は同氏が所蔵し, 著者は 1968. 3. 31 標本を確認している。

飯田 和氏も言っておられるように, このシダは伊豆や武蔵黒山三滝に自生がみられるので本県にあらわれても差しつかえないものである。しかし本県では稀産種に属するものである。

〔附記〕 *Asplenium coenobiale* HANCE クロガネシダ (吉永虎馬, 1892) E (e) Er D_1 R_3.

本種が「箱根植物 (1913)」に記録されているが, どう考えても誤認であると思う。「箱根植物」の本文のなかで旧道の調査の部, 湯本発電所附近の植物を記載されたなかにでている。しかも記載の担当者は当時の指導者松野重太郎氏である。「箱根植物」は神奈川県植物調査会が材料を精査討究して出版されたもので, その調査委員 7 人はいずれも当時のすぐれた植物専攻の指導者格であるので, どうしてこんな土佐や伊予の石灰岩地帯の稀産種を箱根に自生しているといわれたのであろうか。まさしく大きな誤認である。「箱根植物」の終りに箱根植物目録があるが, このなかにはクロガネシダはあげられていない。もちろんその後だれも確認したものはない。

Phyllitis Ludwig コタニワタリ属

〔236〕 *Phyllitis Scolopendrium* (LINN.) NEWMAN コタニワタリ (田中, 1871) Ch (e) (r) D_1 R_3.

三浦: 横須賀, 田浦温泉谷戸 (小黒順造, 1949, 1954), 同 (小黒順造, 植栽品を送られ, それを腊葉標本にした—1962. 12. 17, YCM), 同 (大谷 茂, 1963. 1. 19, YCM), 同 (石渡 宏, 1963. 1. 13 著者確認)。

横須賀市久里浜付近の岩上で, 小田原グループの本田紘一氏が昭和 38 (1963). 1. 19 に本種を 10 株くらい発見した (文献, 1966) との記録があるが, これは産地の誤りであろう。しかし三浦半島におけるコタニワタリの最初の記録は葉山, 上山口の木古庭 (Kikoba) であるから久理浜に出現しても不思議ではないが, 10 株も見たというのであるから, その後だれか確認してもよさそうだが, 誰も確認していない。もちろん著者も確認していない。おそらく産地の誤りであると思う。

道了山（青木捷夫・飯田　和，1957 文献産地—1963, 1966）. 著者はこの標本も現地も確認していない。

箱根：　二子山（石川明三，1940 稀，文献産地—1957, 1963）. 箱根の二子山でその後誰も採集していないし，著者も確認したことはない。はたして自生していたであろうか。

温・亜寒帯に分布するこのシダが，横須賀市田浦の奥谷に自生するということを著者が知ったのは，東京の小黒順造氏の報告 (1959) によったものである。

小黒順造氏は昭和 24 年 (1949) に 3 株，昭和 29 年 (1954) に 2 株を採取して植栽されていた。その中の 1 株の生品を昭和 37 年 (1962) 12 月 17 日に著者のところに寄贈された。そのときのものは腊葉標本として本館に保管している。

その後著者は昭和 38 年 (1963) 1 月 19 日倉田　悟先生を案内し，博物館学芸員柴田敏隆氏等と現地を調査し，約 50 m の距離内に 10 数種を確認したのである。

この自生地は谷の急斜面で，逗子シルト岩層と葉山層の境界付近の基岩上に腐葉土の薄層がかぶったところで，そこに散点しあるいは数株群生して，みごとな生育をあらわしていた。

昭和 38 年 (1963) に著者が横須賀市田浦のコタニワタリをくわしく発表したところ，檜山庫三氏から早速昭和 38 年 12 月 24 日著者宛に書信があった。檜山氏は本県に関する植物について，いつもその都度著者にくわしい報告がされていた。本県のフロラについても忘れ得ぬ人であったのである。今回の手紙はもちろん三浦半島におけるコタニワタリのことであった。すなわち三浦半島におけるコタニワタリの最初の記録は，葉山，上山口の木古庭であって，採取したのは東京薬専の学生で，これを岸田松若氏が同定しているというのである。このことを東薬植物研究会々誌 No. 9 (昭和 8 年，1933) で知ったということである。そしてこのことを「野草」239 に書いたことがあるとの知らせであった。

ここに檜山氏の「野草」No. 239 (1959) に発表された全文をのせて参考に供したい。

三浦のコタニワタリ

三浦半島の木古庭の谷にコタニワタリ (Phyllitis Scolopendrium Newm.) があるということは東京薬専の雑誌で知ったのであるが，かつてこのことをシダ栽培家の織田一磨氏に話したら，早速採りに出かけたが目的は達せられずにしまった。そして曰く，あの辺は小さな流れを，ちょいちょい渡って歩くところがあったから，帰ってからそれで小谷渡りと気がついた。どうも人がわるいと。これに対して，私は何と返事をしたか忘れたが，この頃必要があって古雑誌をひろげていたら，たまたま，このコタニワタリの記事がまた目にとまった。

それによると某氏の採品を岸田松若氏が，たしかに見ていると岸田氏自らが書いているので，木古庭にコタニワタリがあったことは間違いないと思うが，現存するか否かは別問題である。

大谷　茂氏の三浦半島の羊歯 (1956) には載っていないから，おそらく既に絶滅してしまったものと考えられるが，前には在ったという記録のある事実を報じておく。分布から見て多少意外でもあるが，意外なことは，いろいろとあるから気にするほどのことはあるまい。(以下，次号につづく)

引用文献

1) 朝倉修一・飯田　和・田代信二・西尾和子. 1957. 小田原付近の羊歯植物目録，箱根シダ植物調査総合一覧表：調査日程，早川上流 8 月 16 日. 台ヶ岳（仙石原）8 月 17 日. 双子山 8 月 18 日. 金時山 8 月 19 日：6.

2) 出口長男. 1953. 多摩丘陵帷子川流域の植物：18.

3) 出口長男. 1968. 横浜植物誌：59.

Fig. 1. *Asplenium capillipes.* Taraigoya-zawa, Mts. Tanzawa, Prov. Sagami. ヒメイワトラノオの全形 (相模，丹沢タライゴヤ沢，Aug. 12, 1958 大谷　茂　撮影).

Fig. 2. *Asplenium unilaterale.* Jimmuji, Zushi City, Prov. Sagami. ホウビシダ (相模，逗子神武寺，Aug. 9, 1947 大谷　茂　撮影).

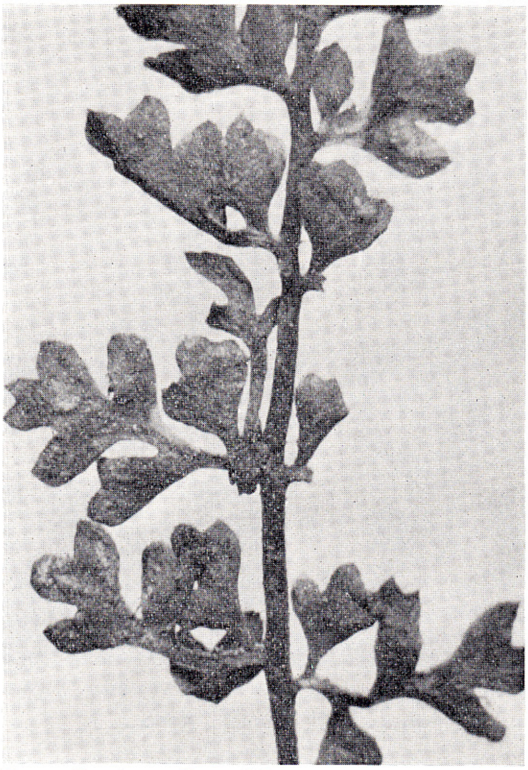

Fig. 3. *Asplenium capillipes*. Taraigoya-Zawa, Mts. Tanzawa, Prov. Sagami. ヒメイワトラノオ，不定芽のついている羽片の上部 (相模，丹沢タライゴヤ沢, Aug. 12, 1958 大谷　茂　撮影).

Fig. 4. *Phyllitis Scolopendrium*. Taura, Yokosuka, Prov. Sagami. コタニワタリ (相模，横須賀，田浦温泉谷戸，Jan. 19, 1963 柴田敏隆氏　撮影)

4) 林　弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江，1961．丹沢山塊の植物調査報告，林業試験場研究報告 133号：49．
5) 檜山庫三．1959．三浦のコタニワタリ，ボタニカルノート，(100)，野草 239：2．
6) 飯田　和．1963．小田原付近における羊歯植物の知識 II，小田原生物談話会々報 2:3．
7) 飯田　和．1966．神奈川県下のシダ植物近況 (2)，小田原市郷土文化館研究誌（自然科学）2：14-15．
8) 神奈川県植物調査会．1913．箱根植物：34, 150．
9) 神奈川県博物調査会．1933．神奈川県植物目録：107．
10) 神奈川県立横浜翠嵐高等学校生物部（代表者，村瀬信義）．1960．丹沢山塊植物目録：1．
11) 増島弘行・石渡治一．1950．三浦半島植物誌，横須賀郷土文化研究室：23．
12) 守矢淳一．1953．高麗山付近植物目録：25．
13) 守矢淳一．1970．平塚市しだ目録：17．
14) 守矢淳一．1971．平塚市野外植物目録：4．
15) 松浦茂寿．1958．箱根植物目録，箱根博物会：2．
16) 西田　誠・栗田子郎・大場秀章．1964．シダ植物の分布と生態，丹沢・大山学術調査報告書：181．
17) 小黒順造．1959．三浦半島にコタニワタリ，ホウライシダ，ヒカゲノカズラを産す，日本シダの会々報 42：4-5．
18) 大谷　茂．1963．三浦半島植物雑記（その 4），コタニワタリ，横須賀市博物館研究報告 8：88, Photo-Plate 9．
19) 帝国女子医学専門学校薬学科第 2 回卒業生一同．1932．武蔵登戸付近植物目録：62．
20) 田代信二・飯田　和・西尾和子．1958．西丹沢シダ目録第 1 輯：3．
21) S. Ohtani. 1956. Ferns from Miura Peninsula, Japan, Science Report of the Yokosuka City Museum 1: 13～26.